

第24期日本学術会議 若手アカデミー活動報告



第24期日本学術会議若手アカデミー代表

岸村 顕広

(九州大学)

1

若手アカデミー（第24期）発足（平成29年12月28日）



三成副会長と記念撮影する若手アカデミーメンバー

(埴淵メンバーによるデザイン)

- 学術の既存の枠にとらわれることなく、次の時代に対して責任を取るべき世代として自覚を持った活動を展開中。
- 若い力を活かした機動力のある「学者のネットワーク」を作り、学術の発展に関わる課題だけでなく、社会課題などにも向き合い、明るい未来の実現を目指している。

日本の若手アカデミー（YAJ）の活動：分科会がメイン

若手のための、あるいは、次世代としての活動を”異分野連携の下に”行う。

- ① ③ (1) 若手科学者の視点を活かした提言
- ② (2) 若手科学者ネットワークの運営
- ① ② (3) 若手科学者の意見収集と問題提起
- ④ (4) 若手科学者の国際交流
- ① ② ③ ④ (5) 産業界、行政、NPO との連携
- ① ② ③ ④ (6) 科学教育の推進
- ③ ④ (7) その他目的の達成に必要な事業

若手アカデミー運営要綱より

①若手による学術の未来検討分科会
(役員：川口慎介、平田佐智子、中村征樹、埴淵知哉)

②若手科学者ネットワーク分科会
(役員：酒折文武、岩崎 渉、井頭麻子、前川知樹)

③イノベーションに向けた社会連携分科会
(役員：高山弘太郎、高瀬堅吉、上村想太郎、谷内江 望)

④国際分科会
(役員：新福洋子、西嶋一欽、中西和嘉、安田仁奈)

- 基本的に縦割りの構造は取らず課題別にグループを設定（多様性と機動力を確保）
→従来の『分野別』では解決困難な課題に柔軟に対応
- 次の時代に対して責任を取るべき世代としての自覚を持った活動
- 『高度かつ多様な次世代人材のプール』として社会への窓口・ハブとして機能

3

分科会名称	審議内容、成果など
運営分科会	今後の活動の方向性や予算問題の扱いについて議論。
若手による学術の未来検討分科会	博士人材活用に関するシンポジウムを日学講堂にて開催し、同時にライブ配信を行い遠方の視聴者からも質問を受けつけた。また、学術の将来（人材育成、継続性、多様性の維持など）に関する議論の準備などを継続して行っている。
若手科学者ネットワーク分科会	次年度の若手科学者サミットを企画(2019年10月頃に開催予定)。若手のネットワークをさらに広げることについても議論をしている。
イノベーションに向けた社会連携分科会	シチズンサイエンスに関連したイベントを実施。その成果として、提言などの形で意見発出をする準備を開始した。
国際分科会	INGSAプレワークショップ、1/15の地域シンポジウムの企画・運営、アジア学術会議の運営、大学国際化のインフラ整備に関する議論、CITES機関の制度設計に関する活動、NYAネットワーク、GYA関連の活動を継続。